

部品加工事業を強化

増強 旋盤・人員
強力 チラシ折り込み機補う

丸山機械製作所



丸山機械製作所は旋盤を使って機械部品を加工する

省力化機械の生産や機械部品の加工を手掛ける丸山機械製作所（群馬県高崎市、佐藤誠一社長）は部品加工事業を強化する。旋盤などの設備を増強するほか人員も増やす。主力の新聞チラシ折り込み機などの需要が伸び悩むなか、加工分野を伸ばすことで収益を補う。さらに技術を蓄積することで新たな完成品の開発・生産につなげる方針だ。

1500万円を投じて、製造本部長滝沢鉄工所製の旋盤を導入したほか、年内にも約3000万円を投じ長さ2メートルの部品も加工できる旋盤を購入。生産能力を拡大する。「来年以降も旋盤とフライス加工機を中心に、年間2000万円程度の投資を続ける」（佐藤社長）方針で、5

年で計1億円の投資を見込む。人員面では2年後までに技術者4人を正社員として新規雇用する。

これまで手掛けてきた加工業務は橋の継ぎ目の金属部品やタイヤ状の緩衝材で使う空気の注入口などが中心。受注分野の

をまとめて束にする機械や、雨の日の新聞にビニール袋をかける機械などを完成品として生産している。ただ、現在は国内需要が伸び悩んでいるうえ、「日本のように宅配制度が根付いている国は

少なく、海外展開も難しい」（佐藤社長）ため加工分野をてこ入れする。同社の売上高は2010年8月期で6億5000万円だった。今後約3年間で売上高に占める部品加工事業の割合を現在

の3割弱から5割に引き上げる計画だ。佐藤社長は「加工を入り口に、将来はOEM（相手先ブランドによる生産）や自社ブランドによる完成品の生産につなげたい」と話している。